

# 1 幸田露伴「雲のいろく——卿雲」

景雲といひ、卿雲といひ、慶雲といへる、しかと指し定められたる雲にはあらざるべし。卿雲爛たり糾縵々たり、といへる、煙にあらざる雲にあらず紫を曳き光を流す、といへる、大人作矣、五色氤氲、といへる、金柯初めて繞繚、玉葉漸く氤氲、といへる、還つて九霄に入りて沆瀣を成し、夕嵐生ずる處鶴松に歸る、といへる詩の句などによりて見れば、歸するところは美しき雲といふまでなり。